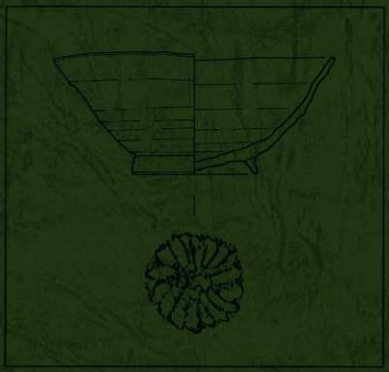
国衙跡保存整備基礎調査
概要報告書 II

寺崎遺跡第6次調査



1998.3

宮崎県教育委員会

序

本書は日向国府・国衙跡の解明とその保存活用のための基礎資料を得るために実施している、国衙跡保存整備基礎調査の概要報告書です。

今年度は、国府推定地である西都市寺崎遺跡内の４か所の発掘調査を実施し、古代の掘立柱建物や国衙域を区画する溝の一部と推定される遺構を検出しました。徐々にではありますが、国衙の構造解明に向けて成果を積み上げている段階であると言えましょう。

また古代の陰に隠れがちですが、中世関連の遺構・遺物も多量に確認されております。それらも日向の歴史を語る上で重要な資料となるでしょう。

それらの調査概要をまとめた本書が、学校教育や生涯学習の場で幅広く活用され、文化財保護のための指針となることを切に願うものであります。

なお、調査は妻北地区の地権者の方々の深いご理解を得て実施することができました。記して感謝申し上げます。

平成10年3月

宮崎県教育委員会

教育長　岩　切　重　厚

凡　例

1．本書は、宮崎県教育委員会が国庫補助を受けて実施した国衙跡保存整備基礎調査の概要報告書である。

2．平成9年度の確認調査は、西都市大字右松字舛田に所在する寺崎遺跡の4か所を対象に、平成9年5月2日から平成10年1月13日までの間実施した。

3．本書の執筆・編集は、宮崎県教育委員会文化課埋蔵文化財係主任主事　吉本正典が担当した。

4．調査にあたっては、調査指導委員会の委員や特別調査員の先生方にご指導をいただいた。

5．諸記録における遺構の略称は以下の通りである。ただし、他地域のそれと異なる独自のものであるため、混乱を避ける意味で、（　）に示した略称を用いる。遺構番号は西暦年下2桁＋001～とする。
SA（竪）＝竪穴住居、SB（掘）＝掘立柱建物、SD（壙）＝土壙、SE（溝）＝溝状遺構、
SF（柵）＝柵列、SG（道）＝道路、SH（穴）＝柱穴・小穴、SK（坑）＝落ち込み

本文目次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
第Ⅱ章　調査の成果 …… 4
　第1節　調査の概要 …… 4
　第2節　寺崎遺跡確認調査（第6次調査）の成果 …… 4
第Ⅲ章　まとめ …… 10
図版 …… 11

挿図目次

第1図　遺跡の位置（1/50,000） …… 3
第2図　調査区位置図（1/2,500） …… 3
第3図　A（フ－22区）遺構分布状況（1/150）・出土遺物（1/4） …… 5
第4図　B（へ・ホ－22区） …… 6
第5図　C（ホ－21区）遺構分布状況（1/150） …… 6
第6図　D（ホ－20・21区）遺構分布・層位状況（1/100） …… 7
第7図　D（ホ－20・21区）出土遺物（1）（1/6） …… 8
第8図　〃　（2）（1/4） …… 9

第Ⅰ章　はじめに

第１節　調査の経緯と組織

１．調査の経緯

日向国府の所在地については、『和名類聚抄』その他の文献の記載や地名、古瓦の分布などから、旧那珂郡に属する佐土原町西佐土原地区に比定する見解（推定地A）、日向国分寺や国分尼寺、印鑰神社の近くの西都市大字三宅とする見解（推定地B）、羽黒神社の北西側の西都市大字右松と剃る見解（推定地C）、都萬神社、調殿神社西側の西都市妻北地区妻（大字妻～右松）とする見解（推定地D）などが示されていたが（第１図）、考古学的資料の蓄積がないため確定には至っていなかった。

そのような中、それらの地域では都市化が徐々に進行し、近年には区画整理事業の計画なども浮上し、国府やその中心を占める国衙、あるいは郡衙等の遺跡の破壊が懸念される状況となってきた。

そのため、宮崎県教育委員会では国庫補助を受け、昭和63年度から平成２年まで国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査を行い、古瓦などの遺物の分布調査や佐土原町を中心とする瓦窯跡の分布調査、各推定地や日向国分寺跡の確認調査等を実施した。その結果、古瓦の分布状況や地形の面から、国府・国衙の所在地として推定地Dが有力となってきた。

さらに宮崎県教育委員会では国庫補助を受け、平成３年度から平成７年度まで国衙・郡衙・古寺跡等遺跡範囲確認調査を行った。

その結果、寺崎遺跡において、方形の柱掘形の掘立柱建物や、畿内地方からの搬入品と見られる土師器杯蓋などが確認され、さらに平成７年度に実施した地下レーダー探査の結果、遺跡の南西部付近で直角に曲がる溝状遺跡の反応が確認された。その一部は実際に検出され７世紀末～８世紀後半の須恵器、転用硯、凸面横方向縄目叩きの平瓦などの遺跡が出土したことから、中心部の一郭を区画する施設と推測されている。

それらの調査成果を踏まえ、宮崎県教育委員会では平成８年度から５か年計画で国衙跡保存整備基礎調査に取りかかることになった。２年目にあたる今年度は、寺崎遺跡内の４か所で確認調査を行った。

来年度以降も、政庁跡の構造など、保存整備に関する基礎資料を収集する予定である。

２．調査の組織

平成９年度の本調査の調査体制は以下の通りである。

調　査　主　体　　宮崎県教育委員会

教育長　岩切重厚　　教育次長　川崎浩康　　教育次長　河野　棗

文化課長　仲田俊彦　　課長補佐　稲田憲男　　主幹兼庶務係長　井上文弘

埋蔵文化財係長　北郷泰道　　関係市町村教育委員会

指　導　監　督　　文化庁

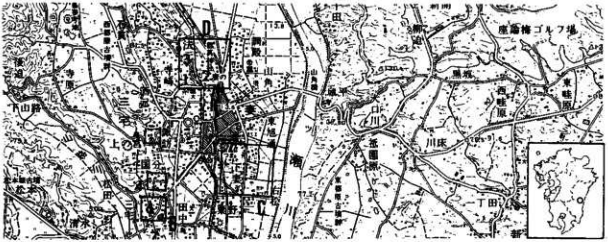
調査指導委員会　小田富士雄（福岡大学人文学部教授）　山中敏史（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター集落遺跡研究室長）　日高正晴（宮崎県文化財保護審議委員）
永井哲雄（宮崎県史編さん室顧問）　阿萬美水（宮崎県立宮崎農業高校教諭）

調　査　員　吉本正典（文化課埋蔵文化財係主任主事）

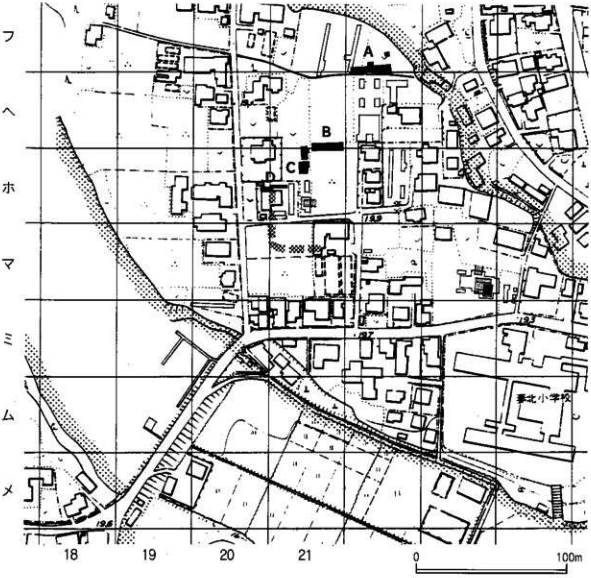
特別調査員　永山修一（鹿児島ラサール高等学校教諭）

表：国衙跡等関連調査一覧（昭和63年度～平成9年度）

年次	調査	内　容	備考・関連事項
昭63	遺跡詳細分布調査	県内分布調査 国分尼寺跡確認調査	布目瓦出土地 （西都市・佐土原町・宮崎市・えびの市・延岡市）
平元		分布調査（西都市） 国分寺跡確認調査 上尾筋遺跡確認調査	２×５間以上の建物跡「僧坊」？
			下村窯跡試掘調査（佐土原町教育委員会）
			遺跡所在地確認調査（西都市教育委員会） 〈上尾筋遺跡・下尾筋遺跡〉
平２		分布調査（佐土原町） 寺崎遺跡	遺跡所在地確認調査（西都市教育委員会） 〈上妻I・J、童子丸Aa・Ab・B、法元H・K、寺崎E・F〉
平３	範囲確認調査	童子丸遺跡第１地点 童子丸遺跡第２地点 上妻遺跡	下村窯跡調査（佐土原町教育委員会）
平４		上妻遺跡A地点 上妻遺跡B地点	単弁８葉蓮華文軒丸瓦 石帯
平５		寺崎遺跡2次	
平６		寺崎遺跡3次	掘立柱建物跡
平７		寺崎遺跡4次 諏訪遺跡2次（国分尼寺跡推定）	溝状遺構
平８	保存整備 基礎調査	寺崎遺跡5次	掘立柱建物跡
平９		寺崎遺跡6次	掘立柱建物か柵列 溝状遺構



第１図　遺跡位置図(1/50,000)



第２図　調査区位置図(1/2,500)

第Ⅱ章　調査の結果

第１節　調査の概要

国衙の範囲をしぼりこむために、寺崎遺跡内の４か所において確認調査を行った（第２図）。フ―22区は北限の確認のために実施した昨年度の調査区を拡張したものである。へ・ホ―21区は中枢建物の検出を、ホ―20区は西限の確認を目的とした。

基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層は表土・耕作土で、各時代の遺物を含む。Ⅱ層はやや灰色かかった褐色土で、土器の細片を多く含む。包含される遺物量は多い。中世に形成された層で比較的大規模な整地の跡と考えられる。Ⅲ層は黒色土でやわらかい。古代の遺物を含む。この層の上面で検出される古代の遺構もあるが、多くはその下位のⅣ層（赤橙色火山灰層でアカホヤ層と称される）上面で確認されている。またⅣ層上面では古墳時代後期に属する黒色土埋土の遺構も検出される。

Ⅴ層は暗褐色土層、Ⅵ層は褐色土層でいずれもかたくしまっている。今回の調査では細かくは追求していないが、これらの層には縄文時代早期の文化層が存在するようである。なお、本遺跡の基盤は段丘礫層で、浅いところでは表土下40～50cmであらわれる。

第２節　寺崎遺跡確認調査（第６次調査）の成果

A. フ―22区の状況（第３図）

昨年度の調査区を拡張する形で調査を行った。調査面積は110㎡。特に、昨年度検出の柵列を追加確認することに主眼を置いた。

本調査区では表土の直下でⅣ層があらわれる。遺構はⅣ層上面で容易に検出できた。昨年度検出の柵列（柵97001）の柱穴は計11基確認された。柱掘形の底部に礎板（扁平礫を用いている）を敷くものが多い。P2とP3の間には柱穴と同一覆土の落ち込み（坑97001）がある。この坑97001から、備前系のすり鉢（第３図２）と土師器杯（３）が出土しており、その特徴から15世紀末の年代が想定される。柵97001も同年代と考えられる。

南北方向（N―5°―E）に走る溝状遺構（溝97001）は遺物に乏しく年代の特定が難しいが覆土の特徴から古代のものと推測される。

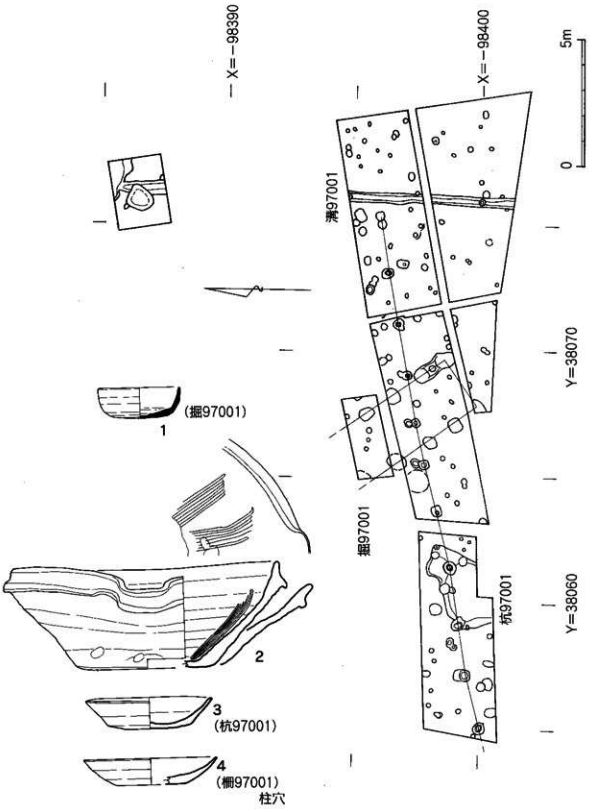
また、主軸の大きく触れる（N―35°―W）建物跡（掘97001）も、柱穴内からの出土遺物は少なかったが、柱穴中より１点のみ出土した須恵器杯（１）より７世紀中葉の年代が与えられよう。

以上の他、大小の小穴が検出されているが、多くは近世のものと考えられる。

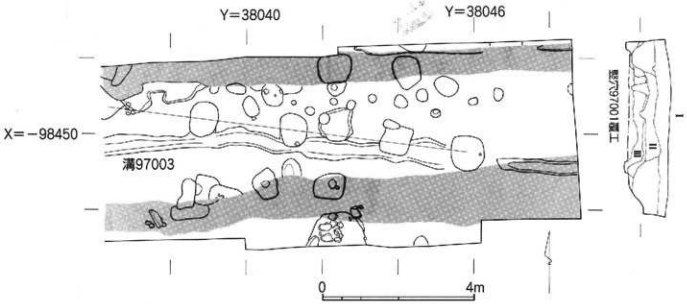
B. へ・ホ―22区（第４図）

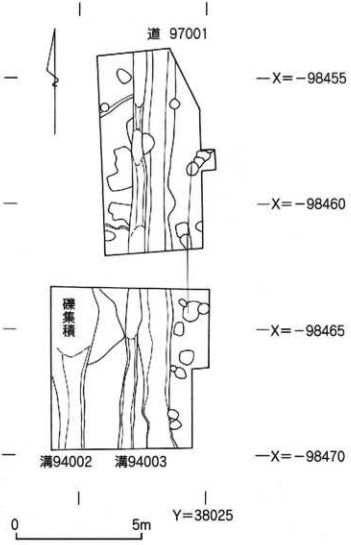
基本的にはⅢ層上面（地表下約50cmであらわれる）で遺構検出・精査を進めていった。調査面積は90㎡。

調査の結果検出された国衙関連の遺構としては、掘立柱建物の柵列の一部と見られる柱穴列１列と溝状遺構（溝976003）がある。その他、古墳時代後期の竪穴住居跡３基（竪97001・97002・97006）、中世～近世の小穴、近世の溝（溝97002・97004）などが検出されている。

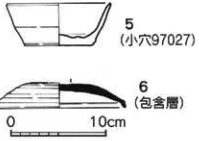


第3図　A(フー22区)遺構分布状況(1/150)・出土遺物(1/4)

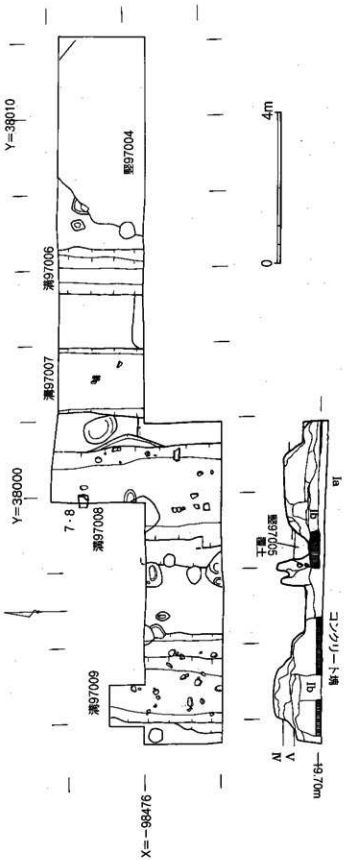




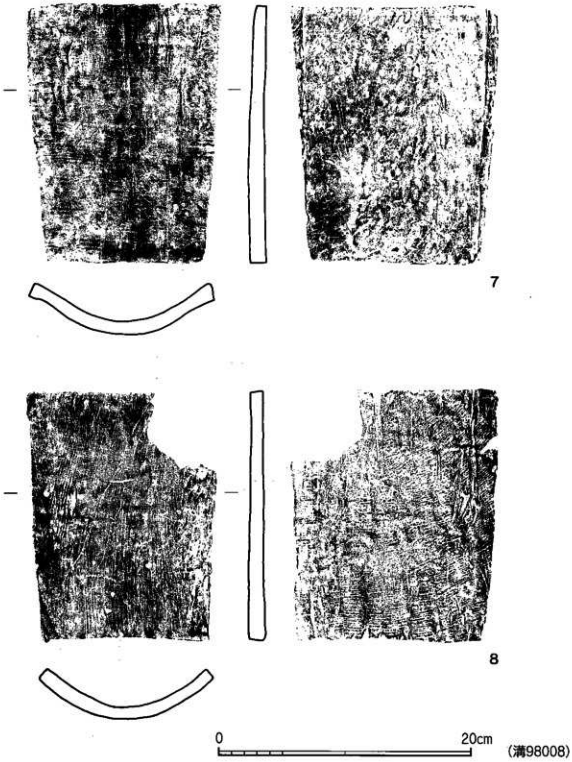
第5図　C（ホ−21区）遺構分布状況(1/150)



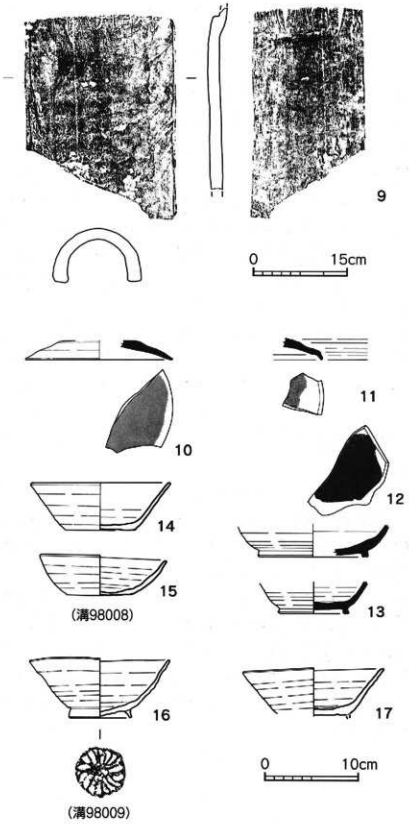
第4図　B（へ・ホ−22区）
遺構分布・層位状況(1/100)・出土遺物(1/4)



第6図　D(ホ−20・21区)遺構分布・層位状況(1/100)



第7図　D（ホ－20・21区）出土遺物(1)(1/6)



第8図　D(ホ－20・21区)出土遺物(2)(1/4)

遺物は、包含層のⅡ・Ⅲ層中や近世の溝の覆土中より多量出土している（図４図５・６）。古代の土師器、須恵器、古瓦も目立つ。

C. へ・ホ—21区（第５図）

平成５・６年度に掘立柱建物が検出された調査区の北側に位置する。調査面積は70㎡。近世の溝状遺構（溝94002と溝94003）の続きが確認され、中世の道路状遺構（道97001）も検出されたが、全体として古代関連の遺構は少なく、包含層も薄い。遺物も古瓦の小破片が少量見られたのみであった。

D. ホ—20・21（第６図）

寺崎３次調査のT５で検出された区画溝と見られる古代の溝状遺構（溝94004）の続きを確認するために西都営林署官舎の北庭にトレンチを設定した。調査面積は45㎡。掘り下げの結果、溝94006の続きを確認し（溝97008）、さらにその西側に同様の規模の溝状遺構（溝97009）が存在することがわかった。両溝の覆土中からは、多量の土器片や古瓦が出土している。当調査区でも古墳時代の竪穴住居跡が検出されている（竪97004・97005）。

図示して遺物のうち、第７図７・８の平瓦は溝97008の覆土上面で重なって出土したものである。他に須恵器蓋杯の転用硯（10～12）、土師器杯（14・15）が見られた。溝98009からは、土師器杯のほかに高台付椀（16）杯（17）が出土している。16の高台内には、工具による圧痕が認められる。

第Ⅲ章　まとめ

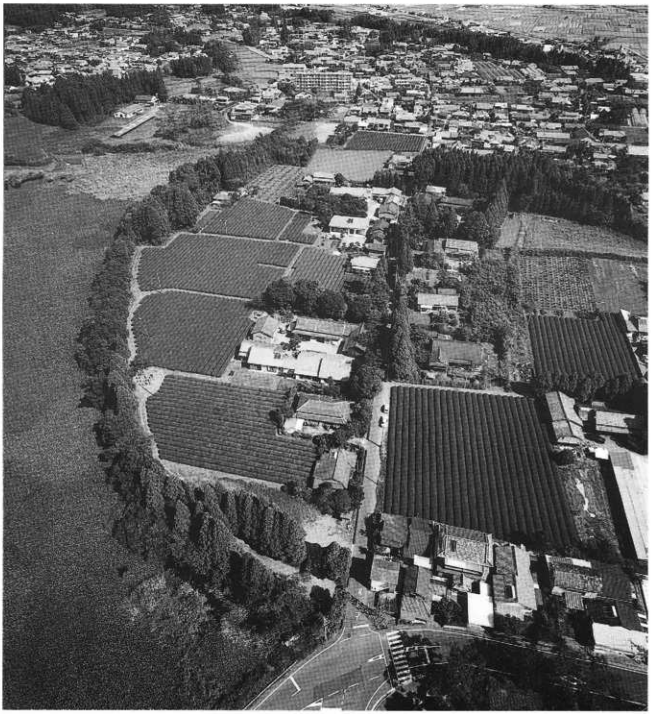
今年度の調査成果について簡単にまとめてみよう。

まず調査に際して、中枢の建物の検出を念頭に置き、平成７年度に行った地下レーダー探査で「遺構面の高まりが認められる」とされた箇所に近いB区と、２×４間以上の、２度の建て替えの痕跡を有する掘立柱建物が検出された寺崎２次・３次B区の北側に接するC区の確認調査を行った。

また昨年度に引き続き、北限の確認のためのA区と、西端を画する遺構と考えられる溝94004の再確認のためのD区を設定し、想定国庁の範囲確定を進めていった。

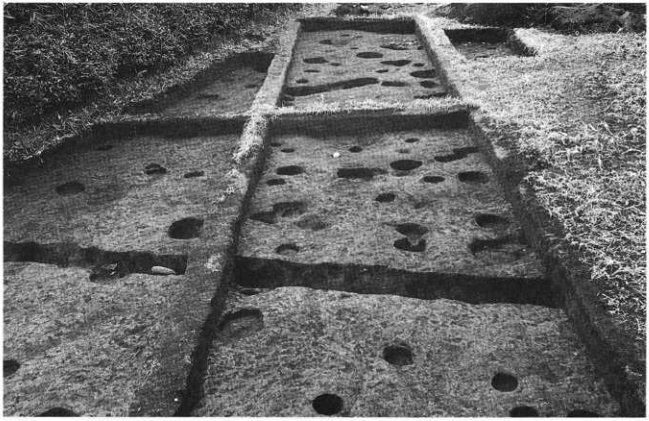
結果として、中枢建物については確認のきっかけを得ることはできなかった。ただC区に大型の柱穴が見られなかったことは、建物の配置を推定する上で重要な「空白の資料」となってくると考える。

D区では、溝94004の続きと推定できる溝98008が確認され、さらにその西側に並行する形で溝98009が検出された。それらが同時期の所産であったとすれば、国庁の囲繞施設との見方も可能となろうが、現段階では遺物の整理を通した詳細な年代の特定は済んでおらず、今後その視点に立った分析を進めていきたい。



寺崎遺跡全景（上空南より）

図版２



A（フー22区）遺構検出状況（東より）

坑97001（北西より）

B（へ・ホー22区）遺構検出状況（西より）

同上（東より）

図版4

D（ホー20・21区）遺構検出状況（東より）

溝97009（北西より）

国衙跡保存整備基礎調査
概要報告書Ⅱ

寺崎遺跡第６次調査

1998年3月31日

発　行　宮崎県教育委員会
〒880-0805 宮崎市橘通1丁目9番10号

印　刷　有限会社富士写真印刷
〒880-0218 宮崎郡佐土原町下那珂
電　話　0985(74)2179